

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

科学的根拠に基づいたがん免疫療法の評価とPublicity

研究分担者 藤原 俊義 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 消化器外科学 教授

研究要旨

免疫チェックポイント阻害剤の成功は、がん治療におけるパラダイムシフトを惹起し、エビデンスレベルの高い標準療法の一つとして「がん免疫療法」が位置付けられた。本研究では、科学的根拠に基づいたがん免疫療法の情報を適切に一般市民に伝えることを目的として、2019年11月29日、日本バイオセラピー学会のサポートのもと、ホテルグランヴィア岡山にて「がん免疫療法を正しく理解する市民公開講座」を開催した。がん免疫療法の概論から肺癌、消化器癌の各論まで、幅広い知見の共有を図った。

A．研究目的

免疫チェックポイント阻害剤の成功は、がん治療におけるパラダイムシフトを惹起し、エビデンスレベルの高い標準療法の一つとして「がん免疫療法」が位置付けられた。しかし、科学的根拠が証明されていないがん免疫療法も存在するため、一般市民により正確な情報を伝え、適切な患者に適切ながん免疫療法を届ける環境整備が重要と考えられる。

本研究では、科学的根拠に基づいたがん免疫療法の情報を適切に一般市民に伝えることを目的として、日本バイオセラピー学会の全面的なサポートにより、「がん免疫療法を正しく理解する市民公開講座」を開催する。

B．研究方法

2019年11月28日からホテルグランヴィア岡山において開催された第32回日本バイオセラピー学会学術集会総会（The 32th Annual Meeting of the Japan Society for Biological Therapy）の2日目、11月29日午後、同会場にて「誰にでもわかるがん免疫療法」と題した市民公開講座を開催した。

厚労科研研究班（河野班）とともに岡山県、岡山市、岡山県医師会、地元の山陽新聞社、山陽放送の後援を得て、それぞれのホームページ等で広報を行い、事前登録を募った。

C．研究結果

3名のがん免疫療法のエキスパートに講演いただいた。昭和大学医学部 腫瘍内科学部門の角田卓也教授には、「がん＝不治の病、終わりの始まり-がん免疫療法によるパラダイムシフト-」と題して、がん免疫の基礎的な背景から免疫チェックポイント阻害剤の作用機序まで、わかりやすく概説いただいた。福島県立医科大学 呼吸器外科学講座の鈴木弘行教授、並びに岡山大学大学院 消化器・肝臓内科学の神崎洋光助教には、すでに保険適用となっている非小細胞肺癌、胃癌に対する免疫チェッ

クポイント阻害剤の有効性や有害事象を中心に、承認の根拠となった臨床試験のデータから自験例の症例まで、幅広くわかりやすく紹介いただいた。

D．考察

大学生から80歳代の年配の方まで、幅広い世代の市民約80名に参加いただいた。免疫チェックポイント阻害剤で一部の患者では長期生存がみられている事実は興味を持って理解され、角田教授が強調された「がんで亡くならない時代が来ている」というコメントには多くの市民が共感した。

3名の講師の先生方の講演により、参加した市民において、がん免疫療法に関するより正確な理解が深まったと思われる。

E．結論

「がん免疫療法を正しく理解する市民公開講座」は、社会的波及効果が大きかったと考えられる。

G．研究発表

1. 論文発表

1) 藤原俊義：第32回日本バイオセラピー学会学術集会総会報告. 岡山医学会雑誌 138: 41-43, 2020.

2) Kanaya, N., Kuroda, S., Kakiuchi, Y., Kumon, K., Tsumura, T., Hashimoto, M., Morihiro, T., Kubota, T., Aoyama, K., Kikuchi, S., Nishizaki, M., Kagawa, S., Tazawa, H., Mizuguchi, H., Urata, Y., Fujiwara, T. Immune modulation by telomerase-specific oncolytic adenovirus synergistically enhances antitumor efficacy with anti-PD1 antibody. Mol Ther, 28: 794-804, 2020.

H．知的財産権の出願・登録状況

該当なし